2013年5月30日東京神学大学チャペル説教原稿

　　　　　　　　　　　　　「**ヨブは慰められた」**

聖書箇所：ヨブ記　42:1-6：讃美歌301番/540番

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1. お読みした聖書の箇所は2012年度後期の旧約聖書学部演習のテーマ箇所であり、学部卒業論文の聖書箇所でもありました。ヨブ記は不思議な書物であり、本日の聖書箇所は不思議のクライマックスのような箇所です。ヨブ記を簡単に振り返ります。まず、神様はヨブに苦難を与えることをサタンに許可します。最初のうち、ヨブは「私たちは幸いを神から受けるのだから、禍も受けなければならないではないか」として信仰深い立場を堅持しておりました。その後、ヨブは我慢ならず、自分の生まれた日を呪い、神様に抗議する姿勢に転じます。ヨブを慰めようとやってきた友人は、ヨブを諭（さと）します。神様から苦しみを受けるのは、罪を犯したからに違いない。心から神様に立ち帰るなら、幸いが回復する、と言います。常識的には、大変信仰深い友人達です。これに対し、ヨブは「断じてあなたたちを正しいとはしない。死に至るまでわたしは潔白を主張する」と答え、神様に対しては、抗議し続け、自分に直接答えることを要求する態度を貫きます。とうとう、神様はヨブに現れ、全能の力をもって神様はこの世界を統治していることを示します。また、怪物のようなものについても神様の支配下にあることをヨブに示します。モーセと同様、神顕現にあったヨブは大転換し、神様への信仰に立ち帰ります。その転換の箇所が42章1-6節です。そして神様は、ヨブの友達たちを「僕（しもべ）ヨブのように正しく語らなかった」として叱責し、他方、ヨブについては当初以上の幸いを回復しました。ハッピーエンドにて「これにて一件落着。桜吹雪」と言いたいところですが、根本的なパズルが残されています。あれだけ強い抗議をしていたヨブは、なぜ、大転換したのでしょうか。42章6節にあるように、ヨブは一体何を「悔い改めた」のでしょうか。正しいことを言っていた友人がなぜ叱られることとなったのでしょうか。伝統的にはヨブは神様に高慢な自己義認の言葉を吐き、それを深く悔い改め、神様は悔い改めによる立ち返りを良し、とせられ、幸いを回復された、と理解されてきました。このような理解が唯一の理解でしょうか。一節一節検討することはできませんのでここでは、42章6節にある、「悔い改め」と言う言葉に着目して他の理解がありえないか、考えてみます。
2. この言葉はヘブル語では「ni:ham」という語です。ヘブル語の語幹がニファル形の場合は「悔い改める」と訳し、ピエル形の場合は「慰められる」と訳すのが一般的と言われてきました。ヨブ記では、主にピエル形で出てきており。ニファル形で出てくるのはここだけです。この個所の後の42章11節の後半に出てくる「慰め」はピエル形の一つです。ピエル形は「慰められる」と訳することで問題はありません。しかし、ニファル形は複雑です。辞書をみると、極めて多様な意味が挙げられています。「申し訳ない」「悲嘆にくれる」「同情する」「悔（くや）む」「悲しむ」「救われた」「楽にする」「慰める」「慰められる」「嘆く」「和解する」という訳が挙げられており、統一感がありません。ピエル形と同じ「慰められる」の意味もあります。研究書によりますと、このニファル形ni:hamの基本的な意味は、negativeな心の状態からpositiveな心の状態に変わる、というところにある、ということです。その結果、この言葉の訳として、「考え直します」とか「改め、転換します」という私訳も出てきました。また詩編110編4節では「思い返される」または「御心を変える」と訳されています。結局、「嘆く」「悔いる」「悲しむ」というnegativeな心の状態から「救われた」「慰められる」「楽にする」「和解する」というようなpositiveな心の状態に転換することを意味しており、状況によって、そのnegativeまたはpositiveなこころの状態そのものも意味する、と解釈できます。従って、ここではヨブが「悲嘆にくれる」状態から、「慰められる」状態への転換を意味している、と理解することができます。なにが、ヨブをしてそのような転換を可能にさせたのでしょうか。ヨブ記における神様の回答の言葉を読んでいきますと、心が温まってきて、自分も神様の支配と守りの下にあることが感じられます。安心感に包まれるようになります。そうです、神様の恵みがこの世を覆っており、苦難の状況にある時こそ神様は愛をもって見ておられ、時が至れば介入される、という約束がある、と言うことです。ヨブはこの恵みにより慰めの約束を見ることが出来たのです。ここに至りますと、マタイによる福音書における山上の説教の一節を思い出します。「悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです」とあります。ヨブのような「苦難」「悲しみ」の中に在る人には必ず「慰め」が与えられるという約束を主がされている、ということです。それ故、「悲しむ」人は「幸いだ」ということです。「悲しむ」人こそ「慰め」を得ることができるのです。ヨブ記42章6節におけるni:hamは主イエスのこの御言葉で具体的に表現されている、といってもよいでしょう。
3. 祈ります。ご在天の父なる御神様、この時を感謝いたします。ヨブ記の中から、「悲しむ」者は必ず「慰められる」という主の約束を知ることが出来ありがとうございます。大きな悲しみにある人々に対し、私たちは自分たちの言葉をもちません。絶句するのみであります。しかし、神様は、私たちの経験する「悲しみ」を軽んじられず、時が至れば、必ず「慰め」を得させて下さる「約束」をお示しくださいました。私たちが、悲しみにある人々に、この神様の約束があるのだ、という福音を宣べ伝える言葉をお与えください。我らの救い主、イエス・キリストの名によって祈ります。アーメン。